



株式会社スーパーまるまつ

「新鮮良品を届けながら
地域の信頼一番店を目指す」



- 1 店舗外観。平成15年に売場面積を倍に広げた
- 2 木のぬくもりのある明るい店舗内。昨年全面改装し、高齢者も利用しやすいように、通路の幅も広めにとってある
- 3 店舗内にある「消化仕入れ」スペース。30社以上の納入業者が棚の管理を行い、徹底的に仕入れを効率化
- 4 2代目となる松岡尚志社長

【企業情報】

- 本社所在地
= 上宮永町 394-5
☎ 72・3654
- 資本金
= 2000万円
- 代表取締役社長
= 松岡尚志
- 従業員 = 50人



今回紹介する企業は、市内の食品スーパーマーケットで最も歴史のある、株式会社スーパーまるまつです。酒やたばこ、雑貨を販売していた松岡義一さん（85歳・同社代表取締役会長）が昭和51年に（有）松岡食品センターを創業したのが始まり。「商売はお客様が求めるものに合わせることが原点」と、義一さんは昭和56年、九州では北九州のスーパーしかなかったPOS（販売時点情報

管理）レジシステムを導入しました。商品にバーコードを貼り単品単位で管理する同システムは、当時としては画期的なこと。来客数や商品ごとの売上げがリアルタイムで分かり、顧客情報や気象情報などと組み合わせ、データを分析することで、正確な商品の需要予測が可能となりました。

また、同社は納入業者に売場の一区画を貸し出す「消化仕入れ」という仕組みもいち早く導入。業者は競うように柳川や九州ブランドの売れ筋商品を並べることで地域色を出すとともに、仕入れの効率化を図っています。

さまざまな工夫を重ねながら、同社は売り上げを順調に伸ばし、平成4年には、売り場面積当たりの売り上げで全国一になったことも。平成15年には、店舗面積を倍に広げ、

多い高齢者がスムーズに買い物を楽しめるようにと、商品棚の間隔をゆつたりとしたものになりました。

「利益を上げた分はしっかりとお客様に還元しないと。店舗改装は、お客様への恩返しの意味もあります」と義一会長から社長を継いだ松岡尚志さん（51歳）は力を込めます。

今も義一会長は毎朝青果市場に、尚志社長は魚市場の競り場に立ち、データに裏打ちされた情報を基に、顧客が喜ぶ新鮮で旬な食材の仕入れに汗を流しています。

●社長のひとこと

変化の激しい小売業界の中で40年以上続けてこられたのはお客様のおかげ。今後も、この地で長く必要とされ、柳川の「食」を守っていけるよう頑張っていきたい。

【問】市商工・ブランド振興課 商工・企業誘致推進係 ☎ 77・8762